

でまねじじいから はじめよう



平成三十年が始まりました。新しい年の幕開けはいつもわくわくします。

お正月休みを利用し、わたしは三日間かけて「断捨離」をしました。「断捨離」はただ物を捨てることではなく、自分にとって価値あるものに囲まれて生活するための一歩です。身につけているもの、生活空間にあるものによって、その人の価値観を表している、というのです。「保育」と似ていませんか？ わたしは子どもたちには「環境教育」といいながら、自身の生活環境には心を配っていません。ホコリをかぶったままおざりにされていたものが、なんと多かつたことか！ それで結局「大切だから捨てられない」としていたはずが、粗末に扱っていた、ということだったのですよね。今回、使えないものは捨てるからサイクルに出すとし、書類の果てから、置物の果てまで総点検！ 本当にかなりスッキリしました。そしたら、「あ、あそこには〇〇を置いてみようかな」と心に余裕が生まれ、家に帰るのが楽しくなってきたのです。

夫などは「あそこに「何か」あつたけど、無くなってスッキリしたね。「何かあった」ぐらいにしか思い出せないものしかなかったんだよね」といっていました。そうなんですよね。自分にとって価値がないものは、無くなっていい思い出せないような「何か」ではないのです。その「何か」にしばらく、大切な空間が埋まっていたとしたら…。なんともつたないことをしていたのでしうか。自分にとっては価値がなくても、誰かにとっては価値あるものであれば、活用してもらえればいい

わけです。

断捨離ってわたしにはそういうことでした。皆さんは年末年始、いかがお過ごしでしたか？ わたしたちは、年末の恒例になった「お節づくり」を保護者さんたちとしました。子どもたちは雪遊び。今回から、生活クラブさんの食材を使って作ったのですが、本当に優しい味でした。身体が喜んでいたので思います。鏡餅は福井県の木村さんから贈っていただいた玄米もち米を使わせていただきました。新年度に子どもたちと鏡開きをして食べようと思っています。

12月末にはスタッフ4人で豊島子どもWAKUWAKUネットワークさんに研修に行かせていただきました。冒険遊び場や子どもハウスを通じて、子どもの居場所作りに取り組んでいるNPOです。活動内容をそのままたけの子に持つてくることはできませんが、その心根は共通するものがあり、自分たちにできることからやってみようと思つたスタツフは心を新たにすることができました。

子どもも同じです。たけの子では年齢に関係なく、包丁を持たせていますが、12月の給食でチョコを包丁で削らせた時、年長さんはなんとかできたのですが、年少児には難しく、できなくて悲しい思いをさせてしまいました。子どもは特に今できなくても、できるようになる時がくるわけですから、時期を待つてあげることが大切です。

では、大人は？ できないことはやりにやるのか、挑戦しようとするのか、それはそ



の場その場、あるいは個人に依じて違うでしょうが、社会全体のことを考えると補い合つて生きていけたらなと思います。もちろん、イヤでもやらなくてはならないこともあります。できなくても相手を責めたりせずに、「じゃあ、どうしていいの？」と聞いてみる。行動していきたくらいです。たけの子はそんな子ども、そして大人を目指しているのですから。 辺見妙子

※今月から、健康管理士として、ミニコラムも掲載していきます。

《「体内時計」の研究にノーベル賞！》

わたしたちの体は約24時間のリズムで変化しています。その体内時計のメカニズムの謎を米国の3人の博士が解明し、2017年のノーベル生理学・医学賞を受賞したそうです。医療に革新をもたらしていくことでしょうね。

寄付や支援をいただいた方々 12月 順不同

支援金

渡部 鋭幸様

土田 英順様

認定こども園めぐたま 様

株式会社 山形県観光物産会館 様

細江 卓朗様

きのこ・うどん

森 雅英様

ボランティア

ライブでんからキャラバン様

機織り教室 古野間 久様

サンタ役 関 久雄様

読み聞かせ 細谷 洋一様

ご支援ありがとうございました



<11月ご支援金>	783円
<ご支援金詳細>	
1、いいね!、商品購入	135円
2、毎日クリック等	648円